

日本構想学会の『構想』に投稿される論述のうち、執筆者により「研究論文」として投稿された論文は編集部でその都度、論文内容にもとづきピアレビュアーとしてふさわしいと判断され依頼する査読委員2名（判定が割れた場合は3名）による査読をおこない、論述の正確さ、論旨（論議の筋道や主旨）の明快性、論述内容の新規性、有用性、構想にかかわる研究との関連性の5つの観点からの評価をもとに、採択、条件付き採択、不採択を判定し、採択論文を掲載します。査読委員名は各巻末に記されるが、どの論文を担当したかは明らかにされない。査読は編集部において規定された『『構想』研究論文査読規程』に準拠しておこなわれる。以下（ ）の数字の前の「研究」は「研究論文」の執筆規程項であることをあらわしている。

（研究-1）研究論文として投稿できるのは日本構想学会会員にかぎられる。論文は日本語または英語で書かれており、内容は構想にかかわることがらで、オリジナルかつ未公開のものに限る（ただし当規程文末に例外あり）。なお、投稿をもって、これらの要件を満たしたことの申請に代えるものとする。

（研究-2）1論文の長さは内容にそくして決定して構わず、特に制約はない。ただし、一般的な学術論文の長さを大幅に超える場合はそれに応じて査読の要する時間が増大する。また蛇足ながら、冗長に長い論文はそれが不採択の要因になる。

（研究-3）原稿の文章はテキストデータ形式（.txt）で電子メールの添付書類にして提出する。編集部ではマイクロソフト社の「Word」は用いていないので、その形式でのファイルは受けつけられない。それ特有の機能を用いてもそのとおりに再現できない。

グラフ、図、表、写真など文書以外のイメージを含む素材も電子メールの添付により提出する。図、表、写真ごとに1ファイルとし、形式はpdfが望ましい。マイクロソフト社のエクセルやパワーポイント、ワードに貼り付けて送付された場合は受けつけられない。カラーを用いることができるが、提出形式に鑑み、常識的にみて巨大なファイルになるものは避けられたい。これら素材の掲載は版面や媒体の容量が限られるため、提出された素材の品質よりも劣化する場合が多い。なお、これら素材はあらためて電子媒体による提出を求める場合がある。

（研究-4）記述は、簡潔、明瞭にし、現代かなづかい、常用漢字を使用する。表・図等は活用すべきだがその数は必要最小限度にし、本文・表・図のあいだであまり意味のない重複は避ける。本文中で用いる図と表はすべて Figure、Table と表記を統一し、通し番号をつける。本文中に挿入箇所を明記する。

また、章や項の項目だてに際しては、通し番号や記号は付かず、大項目については、そのタイトルの前後に空行をいれる。大項目内の下位項目については、そのタイトルの前に空行をいれ、そのタイトルの後には空行をいれない。もし、さらに下位項目を設ける必要がある場合は、そのタイトルの前後には空行をいれない。

（研究-5）論文には日本語と英語による表題、所属機関名、著者名、連絡先電子メールアドレス、要約（英文で150単語前後：文章に関しては校閲を経ていることが望ましく、必ず日本語の要旨を添える）とキーワード（3～5項目、一般に英語小文字、必ず日本語も併記）を必要とする。

（研究-6）数字は原則として算用数字を使用する。なお、論文全体を通じて数字とアルファベット、%などの記号は半角、括弧は全角を用いる。また文字括弧(1)(2)などの表記にあたり、その全体で一文字の全角になるような特殊文字は使用しない（編集の過程で文字コードの相違から(1)(2)が(月)(火)のように変化したりするため校正の際に著者の手間が増えることになる）。アンダーラインや斜体、強調太字などの文字修飾は避ける。和文の句読点は全角の「、」「。」とする。

(研究-7) 計量単位は、原則として国際単位系 (SI) を用いる。

(研究-8) 引用文献は論文の最後に一括する。雑誌名は省略しない。

引用文献の記載は日本語・外国語ともに第一著者名のアルファベット順とする。同一著者の論文・著作等は刊行年順とし、同一年に同一著者の論文・著作等が刊行されている場合には、「1999a」「1999b」のように年号の後にアルファベットで順序をつけて区別する。

文献の表記は以下の形式とする。この形式に依らない場合は査読の手続き以前に著者校正の求めが繰り返される。

・書籍の場合

大空めぐみ (1987) 『戦略的防衛構想の歴史的一考察』大地書房.

Delay,J. (1990) Initiative for Information Society. Fine University Press.

・翻訳本の場合

Illich,I.(1973)ToolsforConviviality,Harper&Row,Publishers,Inc. 渡辺京二・渡辺梨佐訳 (1989) 『コンヴィヴィアリティのための道具』日本エディタースクール出版部.

・書籍中の特定部分の場合

大空めぐみ (1989) 「戦略的防衛の歴史的一考察」 pp.155-185. 大地野いかり編 (1989) 『日本の国防』大国書房に所収.

Delay,J.(1991)InitiativeforKnowledgeSociety.pp.68-120.InOracle,P.G.&Cisco.N.R.(Eds.)(1991)“WorldWideComputing” WonderUniversityPress.

・定期刊行物の場合大札二郎 (2002) 「コンティンジェンシー理論の展開」 『記憶研究』 10(2),112-114.Craik,F.I.M.&Tulving,E.(1975)Depthofprocessingandtheretentionofwordsinepisodicmemory..JournalofExperimentalPsychology:General,104,268-294.

本文中に文献を引用する際はたとえば、「大空 (1976)」、「大地・山田・高橋 (1978)」、「YamanoandUmino(1985)」のように、著者の姓に続けた括弧内に年号をアラビア数字で記入する。

ただし、本文中で参考文献の指示全体を () でくくる場合は、著者姓と年号のあいだを「,」とし、文献が複数ある場合のあいだは「;」で区切る。例「大空,1976;大地・山田・高橋,1978;YamanoandUmino,1985)」。

なお、本文中に文献を引用する際、それが共著 4 名以上の場合は「高橋ら (2002)、(Davidsonetal.,2001) のようにする。

(研究-9) 脚注は、本文の末尾、引用文献の前に一括し、複数ある場合は通し番号 (* 番号) [() は不要] をつけて本文中での参照関係を明確にする。脚注は表題、所属機関の補足説明、謝辞、内容の補足説明にかぎり用いる。

(研究-10) 仕上がりの体裁は編集部に一任する。本誌に掲載された論文の著作権は日本構想学会に帰属する。

(研究-11) 独立ページ表紙一枚につきの項目が表記されていること。

1. 投稿種別「研究論文」
2. 日本語題名
3. 英文題名
4. 所属・連絡先
 - 1) 執筆者氏名: 漢字表記、ローマ字表記
 - 2) 所属機関・部署名・職位
 - 3) 連絡先住所

- 4) 連絡先電話番号
- 5) 電子メール・アドレス
- 6) 上記の連絡手段のうち最も連絡が付きやすいものに○印をつける。

(研究-12)以上の形式を満たしていない論文については査読以前の段階で論文が受けつけられないので注意されたい。また、内容が日本構想学会の設立趣旨や活動目的に沿わないと判断された場合、あるいは常識的観点からあきらかに公序良俗に反すると判断されたり、具体的な他者や組織の誹謗中傷を内容に含む場合は受けつけられない。これらの判断は編集部が恣意的におこない、その判断理由はあきらかにしない。

(研究-13) 掲載論文に対する原稿料は支払われない。

(研究-14) 原稿が受理され査読手続きに入る場合、査読経費として ¥30,000 の支払いが必要になる。査読の結果、原稿が不採択の場合でも査読経費は返却されない。そのこともあり査読手続きに入る前に著者の希望があれば、予備審を無料で受けることができる。予備審は編集部において主に投稿 / 執筆規程に沿った形式面での受理可能性が満たされているか否かを査定する手続きである。査読手続きにおいてその観点での不採択になることを回避することができる。

査読の結果、採択された場合、査読経費とは別に掲載経費として ¥30,000 の掲載料が必要になる。

(研究-15) 研究論文として掲載された内容の更新や追加などによる改訂新版を本誌の一般論述として投稿することができる。改訂新版の研究論文としての投稿は原則的にできない。

(研究-16) 採択された論文は投稿時期にかかわらず、その都度、直ちに電子ジャーナルとし日本構想学会ウェブサイトの『構想』ページを介し、pdf ファイル形式で掲載され一般に無料公開される。構文は 1 年単位で巻としてまとめる。本誌は底版を電子ジャーナルとして発行する、そのため別刷は制作しない。